

# 平和を求めて

35

## 私の町の戦争跡

新宿区霞ヶ丘町  
文京区本郷



第二次大戦も末期を迎えつつあった一九四三(昭和十八)年、兵力不足を補つとして二〇歳以上の大学、高等学校、専門学校の文科系学生が徴兵猶予が停止(旧制の高校、大学などの学生は二六歳までは徴兵が猶予されていた)され出兵させ

### 秋雨の神宮外苑 壮行会に六万五千名

「出陣学徒壮行会」は全国各地でおこなわれました。東京では同年十月二十一日、強い秋雨が降りしきる四谷区(現新宿区)の神宮外苑競技場で出陣学生や送る学

生あわせて六万五千名があつまるなかでおこなわれました。十二月には陸軍、海軍に入隊し各地の戦場に赴き、中には特攻隊にもまわされるなど多くの若い命が奪われました。

しかし徴兵された学生の数も戦死した学生の数も公式にはありません。

### 名アナ故志村正順氏 と・・・出陣壮行会

十月二十一日の「出陣学徒壮行会」は、新聞やラジオ、映画でもとりあげられました。先頃「」なられたNHKの志村正順氏はこの

実況放送を行ったことでも知られています。当初の予定では先輩の和田信賢氏が担当するはずでしたが、和田氏の都合で当日の開始直前に志村氏に急遽変更になりました。志村さんは「和田さんは鋭い人で、学徒が散るとわかっていて、それに耐えられず、僕に任せただけでしょう」(NHK後輩アナウンサー西田善夫氏の証言「産経新聞」といっていたそうです。

### わだつみ会の発足

一九四七(昭和22)年、東京大学戦没学徒兵の手記が「はるかなる山河に」として出版され、また一九四九(昭和24)年には、日本全国の戦没学徒兵の遺稿

集として「きけ わだつみのこえ」が出版されました。一九五〇(昭和25)年には、日本戦没学生記念会(わだつみ会)が発足しました。

わだつみ会は、「戦争で亡くなった学徒兵たちの『戦争によって流された血は、ふたたび、それが決して流されぬようにすること以外に』は償われぬ」との考えに立って、戦没学生への追悼をとおして平和の創造へ向かう活動(同会ホームページ)をすすめてきました。

### 多くの人に訪れてほしい「わだつみのこえ記念館」

わだつみのこえ記念館が、二〇〇六年十二月、文京区本郷に設立されました。地下鉄「本郷三丁目」から東大赤門をこえると左手の「喜福寺」わきのやや奥まったところにある「赤門アピタシオン」の一階に



「記念館」はあります。戦没学生への遺稿・遺品などが展示されています。その中には宮沢賢治の「鳥の北斗七星」の一節「どっか憎むことのできな

い敵を殺さないでいいように早くこの世界がなりますように」を引用してたためた直筆の遺稿など、たくさんの方の貴重な遺稿が展示されていて胸をうたれます。多くの人が訪れてほしい記念館です。(わだつみのこえ記念館「文京区本郷5-1-13」で入場無料、月、水、金曜日の13時30分〜16時まで)

出陣学徒壮行の碑、わだつみこえ記念館  
戦争で流された血は  
戦争を起さぬことでしか償われぬ